

講義レジュメ

講 師 高橋真理子(星空工房アルリシャ)

内容・テーマ

地域との関わりをどのように築くか 期 日 10月9日(木)

「学ぶ」というのは、一人ひとりの経験や記憶と、あらたな知見がつながるときのことを言うのではないかと常々感じている。目の前にあるものを、自分の問題としてとらえられるか、主体的に関わることができるか、ここが「学ぶ」か、ただ見聞きして忘れていくか、の違いのように思う。

当方は、山梨県立科学館（98年開館）において、準備室時代から天文担当としてプラネタリウムの運営を行ってきた。その中で、解説や番組制作においては、一人ひとりの記憶をひきだし、提供する事がらを「自分ごと」と捉えてもらえるようにすることに主眼を置いてきた。また、来館者や市民に、いかに主体的にプラネタリウム（博物館）に関わってもらうか、という視点で、さまざまな企画を行ってきた。

本講義では、17年間の科学館における実践の話に基づきながら、「つながり続ける博物館像」について、ともに考える時間を持ちたいと思っている。

また、当方は、2013年に正規職員をおりて独立し、現在は「星空工房アルリシャ」として活動展開している。（科学館には、天文アドバイザーとして、非常勤で携わっている。）地域を巻き込む企画のノウハウなどを、他所にも広げていくお手伝いができればとも考えており、そのようなことにも触れていきたい。